

南箕輪村むらづくり（委員）：会（第9回）会議録

令和 6 年 10 月 22 日 (火)

午後7時～午後8時35分

出席報告【出席者 計 28 名】	
むらづくり委員会 (19 名)	山岡 勉 委員 長谷川 義隆 委員 加藤 直樹 委員 高木 武 委員 唐木 茂人 委員 酒井 きよみ 委員 清水 真知子 委員 伊澤 武善 委員 足立 芳夫 委員 (会長) 田口 和弘 委員 小椋 信子 委員 菅家 美果 委員 千 菊夫 委員 富岡 順子 委員 橋場 麻衣子 委員 入倉 眞佐子 委員 (会長代理) 松田 聖一 委員 原 和彦 委員 吉川 つづり 委員
事務局 (3 名)	地域づくり推進課長 高橋 地域づくり推進課 企画係長 横道 地域づくり推進課 企画係 清水
説明者 (6)	危機管理課職員 産業課職員 観光森林課職員 教育委員会事務局職員
欠席者 (9 名)	伊久間 美昭 委員 北原 泰司 委員 清水 克俊 委員 唐澤 成江 委員 平野 幸代 委員 宮坂 大樹 委員 井口 千鶴 委員 稲生 正徳 委員 三澤 聡 委員

1. 開会 会長代理

2. 会長あいさつ 足立会長

急に冷え込んだり、また暑くなったりと体がついていきませんが、前回に引き続き総合戦略の検証の残りの検証を行うので円滑なご審議をいただきたい。

3. 協議事項

(1) 南箕輪村創生総合戦略の検証について

- ① 村創成総合戦略基本目標の数値目標について 事務局より説明（追加資料）
- ② 村創生総合戦略の検証について 村役場担当者よりそれぞれ説明（前回資料2）

②-1 防災係（No.32、33） 危機管理課より説明

- ・ No.32 防災に関する出前講座開催数 達成率 50.0% 自己判定 C
- ・ No.33 防災士養成人数 達成率 93.8% 自己判定 B

【意見】

（委員）：No.32 に関して、来年度どの程度実施する予定があるか、決まっていたら教えてほしい。

（担当課）：出前講座の性質上、その年度で要望があったところに出向いている。来年度の予定はまだない状態だが、近年の災害の発生状況もあり、子ども、高齢者に向けての防災の知識を深めていただく取り組みが必要と感じており今後充実させていきたい。

（委員）：担当課の評価が C ということで説明いただいたが、回数が今後増える可能性が見込めるなら C ではなく B にしてもいいのではないかと感じる。

（委員）：今年度、県の外国人住民支援のための防災講座に参加したが、外国人住民はなかなか日本語ができないということや、地震や自然災害がない国から来ている人たちもいるので、防災の講座は大切なことと思っている。南箕輪村では外国人住民に対して多言語での防災講座の予定などがあるか。またはこれまでに開催したことはあるか。

（担当課）：合理的配慮を必要とするということで法律等も変わり、外国人住民のほかにも災害弱者と言われる方を含めて、今後どのようにしていくのか課題となっている。外国人住民、防災関係者を含めて講座等を専門的に開催したことはないので、現状を踏まえ今後の体制強化を図っていきたい。

（委員）：先日、役場庁舎の防災訓練に参加させていただくことがあった。ただ、役場の従業員だけで動いており、一般の方はそのまま窓口対応していたので、一般の方も声かけて一緒に避難するともっといい訓練になると感じた。

（担当課）：庁舎の防災訓練は総務課で主催しているが、来年度に活かせるよう意見を伝える。

②-2 農政係（No.5、13） 産業課より説明

- ・ No.5 中核的経営体が地域の農地に占める面積のシェア 達成率 84.5% 自己判定 B
- ・ No.13 市民農園面積 達成率 100.0% 自己判定 A

（委員）：No.13 に関して、昨年度も質問したが、ふれあい農園の栽培講習会の対象者はふれあい農園

を使っている方だけか。

(担当課)：現在はふれあい農園の方を対象にしている。近隣市町村ではふれあい農園利用者以外にも対象にしているところもあるので、来年度は検討していきたい。

(委員)：参加したい人は多いと思うしニーズもあると思う。ガーデニングや畑をこれから始めたい方などいると思うので、このようなイベントを大きくしてほしい。

(委員)：田んぼや畑で、所有者が作れない、借り手もいなくて荒れて何も作ってないところが何%くらいあるか把握していたら教えてほしい。

(担当課)：耕作放棄地の内訳の話になると思うが、No.4の耕作放棄地のうち、約半分の方は自分で何とかするとの回答だったが、もう半分は自分では手が付けられない、または無回答といった状況。

(委員)：このような土地について対処や取り組みはされているのか。

(担当課)：国が間に入って農地バンクに預けることになっているが、農地バンクの方が現場に見に来て、草や木がすごいとなると農地バンクを介しても借りられないという状態もある。まだいい農地なら話が進むが実際のところは話が進むケースは少ないと感じる。

②-3 商工係 (No.2、3) 産業課より説明

- ・ No.2 企業振興補助金交付事業所数 達成率 72.2% 自己判定 C
- ・ No.3 村・県制度資金申請件数 達成率 110.0% 自己判定 A

【質疑・意見】なし

②-4 大芝サービス係 (No.16、18、19) 観光森林課より説明

- ・ No.16 観光 PR イベント開催回数 達成率 129.2% 自己判定 A
- ・ No.18 経ヶ岳・権兵衛峠を活用したイベントにおける登山者数 達成率 60.0% 自己判定 B
- ・ No.19 「ふるさと名物」商品化件数 達成率 57.1% 自己判定 B

(委員)：No.18に関して、自己評価がB評価になっているが、毎年災害があるなかで、目標値2000人に対しての評価の仕方が良いか悪いかということは非常に問題と思う。例えばその年に台風が多かった、災害が多かったといえれば登山者数は減る。そのようなことを考慮しながらの評価が必要と感じる。登山道整備などしっかりとしていても2000人に達しないからこの評価になるというのは非常に残念。

(委員)：目標数値の2000人という数値にした根拠はなにか。また、2000人という目標値に対してどのように考えているか。

(担当課)：2000人が妥当なのかどうかというところ。イベントとして実施した経ヶ岳のパーティカルリミットは、今年はコロナ禍明けで500名ほど。最盛期には800人から900人の参加があった。また、登山口に人数を数えるカウンターなどはついていないので、個人での登山の実数値は不明。これらを踏まえて、目標値が適正なものかは今後検討させていただきたい。

(委員)：No.19に関して、ふるさと名物の商品化件数が令和3年から令和4年になるときに10件から8件に減っている。登録していたが更新しないということと受け止めるが更新しない理由は登録に面倒なことがある、登録してもらうためにお金が必要などの理由があるのか。

(担当課)：登録するのにお金がかかるということはない。認定日から4年間認定しPRイベント等で販売等もするというので進めてきている。更新しなかったのは事業者さんの都合もあると思う。

(委員)：ふるさと名物の8件はどのような商品があるのか。

(担当課)：お菓子の南箕輪の実や天使の美肌水など。(後ほど資料提供)

(委員)：ふるさと名物の推奨品はアリオ上田などイベントに行くときには全部持って行っているのか。また、ネット販売などはしているのか。

(担当課)：お酒が扱えないなど、イベントごとに販売できる条件があるため、すべてを一緒に持っていくことはできないが、イベント等で販売している実績はある。ネット販売については開発公社で担当している。また、ふるさと納税の返礼品となっているものもあり、ふるさと名物推奨品として表示している。

(委員)：最近、観光PRイベントのインスタグラムなどセンスが良くなり、とても良いと思う。

(委員)：せっかくこれだけの推奨品があるので、一般の村民向けにもPRを。

②-5 学校教育係(No.22、25) 教育委員会事務局より説明

- ・ No.22 登下校見守りボランティア登録者数 達成率 66.0% 自己判定 C
- ・ No.25 体験学習実施時間数 達成率 270.0% 自己判定 A

(委員)：No.22に関して、どのような手順を踏んで登録しているのか。

(担当課)：各学校で登録をしており、各学校に申請いただければ。登録時にジャケットを配らせていただいている。

(委員)：緑色の旗が立っている家庭があるが、ボランティアでこの登録をしているご家庭ということでしょうか。

(担当課)：いってらっしゃいおかえりなさい運動の旗で、ボランティアでご協力いただいている。

(委員)：この旗をどうすればもらえるのだろうかと思っていたが、ボランティアの存在自体を存じている方が少ないのではと思う。周知、PRの状況は？

(担当課)：学校でチラシを配布したり、文化講演会などの行事でもチラシを配布したりとしているが、PR不足もあるかと思うので今後検討していきたい。

(委員)：学校にお子さんがいない世代の方にも見守りボランティアをしてもらいたいとのことなら、学校で配るだけではカバーできないと思うので、村報などで広く周知したほうが良いのではと思う。

(委員)：No.25に関して、体験学習が増えれば増えるほど、算数国語などの読み書きの授業時間とのバランスはどのようになっているのか教えて欲しい。また、今後この体験学習がますます増えるという方向性とする、学校現場の先生方にとってどのようなバランスになっているのかを伺いたい。

(担当課)：学習指導要領の中では標準授業時間があり、特別活動や総合的な学習という時間がそれぞれある。現在は、この時間の範囲内で活動をしている。この後説明予定のNo26、No35にも関わってくるが、村では、キャリア教育コーディネーターをお願いしており、先生たちの総合的な学習などの時間についての困り感などについてサポートしている。

②-6 学校教育係(No.22、25) 教育委員会事務局より説明

- ・ No.26 キャリア教育・郷土教育実施時間数 達成率 575.0% 自己判定 A
- ・ No.35 学校教育での自然学習時間 達成率 1600.0% 自己判定 A

(委員)：No.35 に関して、極端に増えている達成値についての理由は？また、No.26 のキャリア教育について教えて欲しい。

(担当課)：No.35 の目標値 15 時間の設定については当初の設定値が少ないのではと個人的には感じている。目標値設定については次回改定時に検討したい。なお、標準授業時間の中で自然学習時間についても設定しており、各校の積み上げで今年は 240 時間となっている。

(委員) キャリア教育について：自分たちの時代は学校でのキャリア教育はなかった時代であった。1 人 1 人が、自分自身がどんな価値観を持っているか、どんなキャリアを続けていきたいということを中心的に考えていかなければいけない時代になっている。小学校では様々な体験活動を通じて何が好きか、自分にはどんな力があるのか、仲間たちと協力して行うことなどを大切に、探求していく力をつけ、課題を解決していくような体験学習を行っている。また、中学校では、実際に子どもたちが職業体験などを通じて、こういうことが好きなんだというものを自覚していくようなことをしている。なお、キャリア教育コーディネーターとしては、子どもたちがこんな体験をしたというものや先生方のニーズを聞き、学校のサポートや学校と地域をつなぐという活動をしている。

(担当課)：キャリア教育コーディネーター主催で、村にある小中学校 3 校と上農高校、南信工科短期大学、信州大学の 6 校で定期的に会議を行いながら連携し活動を進めたりもしている。

(委員)：目標時間設定について、学習指導要領に定められた時間とのバランスと、学級それぞれの先生方独自の活動も共通すればその中に含まれるかもしれないので、上限の 200 数十時間が目標値に反映されると実態とあってくると感じる。

②- 7 社会教育係 (No.27、28) 教育委員会事務局より説明

- ・ No.27 わくわくクラブ会員数 達成率 77.8% 自己判定 C
- ・ No.28 スポーツ施設利用者数 達成率 78.6% 自己判定 B

(委員)：No.27 に関して、わくわくクラブは会費収入があると思が収支報告はどのような感じか。

(担当課)：補助金出しているため収支報告書は村に提出されているが別団体なので、わくわくクラブの許可を取って資料を出す。(次回会議で資料提供)

(委員)：自身もわくわくクラブに所属しているが、コロナ禍をきっかけに参加者がすごく減った。ウェブサイトなども使って各団体で呼びかけをしているが、なかなか人が戻ってこないのが現状。情報発信について村とも協力して何かできたらより会員数も戻ってくるのではないかな。

(担当課)：わくわくクラブとも協力し、PR していきたい。

(委員)：No.28 に関して、スポーツ施設の予約を取ろうと空き状況をホームページで確認し空いていたので電話したところ空いていないといったことがあった。スマホの時代になり施設予約もネットでできる時代なのでネットから予約できるよう検討してほしい。

(担当課)：現在空き状況のみホームページで公開しているが、予約は紙の台帳でそれをもとにシステムに入力しホームページにデータを上げている状況。現在のシステムの使いにくさやシステムへの入力が遅いなど課題がある。今年度施設予約システムを更新し、来年度からはネットからの予約もできるように改修しているところ。体育施設、大芝公園内の施設ともに利用できるものに構築し

直しており、施設管理者への操作説明についても村でしっかりと教えていきたい。

(委員)：村民体育館は中学校の授業や部活で使う機会も多く、一般の村民が使える枠が少ないのではないかと。わくわくクラブの会員が増えるなら新たに体育館作るなど使える施設を増やしてあげることも必要なのでは。

(担当課)：ご意見として伺う。学校、わくわくクラブ間の枠の調整など実施しているところ。新たな体育館建設は多大な費用がかかるため検討していない。

(説明全体を通しての意見等)

(委員)：意見ではないが、中学生の経ヶ岳競歩が近年、負担軽減のため登山道で折り返すことになった。パーティカルリミットで経ヶ岳に久々登ってみて景色のすばらしさを改めて感じたこともあり、後世に残していくためにも、中学生で登らなくても、親子で子どもたちと経ヶ岳に登るなどのイベントがあれば村の山に登る思い出の機会にもなり、経ヶ岳に行く人が増えたらと感じた。

4. その他

今後の日程について 事務局

次回開催の第9回むらづくり委員会について

11月6日(火) 19時～ 役場講堂

内容：村民アンケート・ワークショップ等の情報の共有、分類、まとめ作業②

5. 閉会 会長代理